

『床コンクリート直押え工事に伴う補修の件』

(第72回日左連定期総会に東海ブロック会より提案)

昨今の経済情勢の悪化の中、左官工事業に従事する私共は必死に耐え努力しておりますが、あまりに急激な変化の為、対応がうまく出来ず苦慮しているのが現状です。

このような状況下左官業界として、一番困っていることが標題の「床コンクリート直押え工事に伴う補修の件」です。通常は、設計図書にも明記が無く、したがって積算数量にもありません。机上では可能ですが、現実問題として補修しなくて済むことはありません。工場、倉庫等鉄骨工事現場で、その後コンクリ打ち等が無い現場はごくまれにあります。大方の現場では、補修工事が発生いたします。それは、支保工を立てる時、釘止めをしたり、床面との取り合いにコンクリートカス（付着物）が発生したり、ヘコミが出来たり、サポートが弛んだり、当初の目論見どおりのレベルがとれていなかったり、コンクリート打ちの最中に雨に叩かれたり、凍ったり不測の事態がどうしても発生してしまいます。或いは沓摺を取り付けたり、見切り棒を入れたり、ノンスリップタイルを取り付けたり等で補修が出ます。

このような訳で、必ず補修に手が掛るのですが、必要な補修費用が予算計上されて無いのです。

それで仕事はやって貰った事は承知しているが、お金を出すところが無いと言われる事が多々有り、非常に困っており死活問題なのです。工事取極め時にも相当無理を強いられており、順調に施工出来たとしても、企業経営上余裕が全く無い状況で、尚且つ追加工事代金が貰えないとなると、経営が成り立ちません。倒産廃業がちらつきます。そこで東海ブロック会として提案いたします。

諸般の理由で補修工事をする場合でも、状況によって違いますが、補修費用が必要です。それならば施工計画時に、当初から床一発仕上げは避け、床コンクリ平滑均し（金鏝）とし、その上に、セルフレベルリング材施工とか、モルタル塗り（勾配の必要な場所）、5mm～10mm程度の樹脂モルタル仕上げ等の施工をご提案いたします。

金額的にも安くできるのではないのでしょうか。（状態により）

左官工も新規入職者が激減しており、高齢者の比率が高くなっています。我々業界も施工等の研究、努力は勿論しますが、根本的な発送転換が必要です。安心、安全でしっかりした構築物を作り、社会貢献をしたいのです。

どうか左官業界の切実な訴えと受け止め、ご賢察、ご考察の程お願い申し上げます。